

日本の卵食文化支える

養鶏生産をスマート化

日本は1人当たりの卵の消費量が年間300個以上で世界2位。価格も、今でこそ高騰中だが、1年前は50年前とほぼ同じだった。ハイテムは卵生産用の鶏舎設備で国内シェアが6割以上。1972年の創業以来、鶏舎の効率経営と、卵好きな日本人の食文化を支えている。

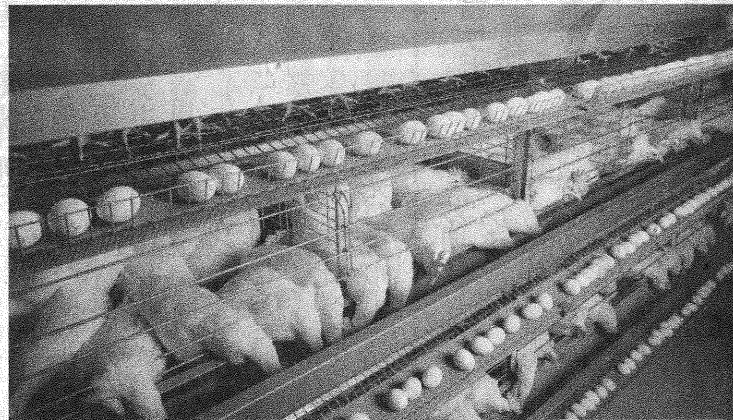
鶏卵の生産は給餌、給水、集卵、集糞、空は説く。調が基本。糞の乾燥など必要だ。ハイテムでは「エッグファームオートメーション」(E

FTA)でさまざまな作業の自動化を担う。乾燥や換気のシステム「餌を安く買い卵を高く売るだけでなく、第2の利益が出せる」と

ハイテム

次代を担う 中部企業

技術開発や設計、品質管理は本社、生産は中国天津市の子会社と分業体制で価格競争力を維持。ただし、製品



ハイテムの卵生産用の鶏舎システム



「投資価値を理解してくれるハイテムの顧客を開拓する」と安田社長

測するシステムは実用化済み。卵の重さの推計や、1日に10万羽中10羽程度ある死亡を見つける人工知能(AI)画像処理システムも実証を進めている。日本ではAI活用などのスマート化も提案。「第3の利益」の追求を訴える。「国内シェア8割を目指す」(安田社長) 方針だ。一方、日本の20倍の「投資価値を理解してくるハイテムの顧客を開拓しアジアで1割の市場シェアを目指す」(同)。(岐阜) (随時掲載)

【企業概要】

▷所在地=岐阜県各務原市テクノプラザ2の10▷代表者=安田勝彦氏▷創業=72年(昭47)6月▷資本金=9000万円▷従業員=100人▷売上高=41億円(22年9月期)

2023年8月7日
日刊工業新聞